令和５年６月９日

学校法人三幸学園
横浜スイーツ＆カフェ専門学校
校長　小泉　いづみ　殿

学校関係者評価委員会
委員長　佐々木　康人

学校関係者評価委員会報告

令和４年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

１　学校関係者評価委員
①　長山　慎太郎（有限会社　ヒューマンカウンシル　代表取締役）
②　胡桃澤　忍　（株式会社　プロダクトオブタイム　副社長）
③　佐々木　康人（飛鳥未来高等学校　横浜関内キャンパス　キャンパス長）
④　嘉山　美祝　（第８期生　卒業生）
⑤　古賀　優那　（第１０期生　卒業生）

２　学校関係者評価委員会の開催状況
令和５年６月９日（会場　横浜スイーツ＆カフェ専門学校　４０１教室）

３　学校関係者委員会報告
別紙「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2022 年度　学校法人　三幸学園　横浜スイーツ＆カフェ専門学校
自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者　：　副校長　今村　温子
学校関係者評価報告責任者　：　学校関係者評価委員会委員長　佐々木　康人

1、学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、製菓・調理分野の学校として「美味しくてかわいいスイーツとカフェを通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、製菓・調理分野として「美味しくてかわいいスイーツとカフェを通じて、時間と空間をトータルプロデュースし、人の心を豊かにする人材を育成する（全ては、お客様の笑顔とありがとうのために）人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2、前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

①　前年度重点施策振り返り

（重点施策）

・社会に貢献できる人材の育成

食を通して、「笑顔・信頼・感動」を生み出す人財となる為に下記7点を教職員一丸となって生徒指導をし、強化していく。

①　予習復習＝技術向上　②　掃除徹底・衛生管理　③　徹底管理！時間・体調・所有物
④　笑声・挨拶・返事　⑤　まずやってみる＝チャレンジ　⑥ポジティ語を使う！
⑦　各クラスに即した目標

・退学率低減、皆精勤率向上　・産学連携・地域連携の強化

（振り返り）

・コロナ禍によって 2020 年度から指導を強化しにくい状況もあり、バランスを取りながらの指導を実施してきたが、当たり前にやっていたことが当たり前にできない時代が 2022 年も続いた印象はある。だが、その中でも教職員の前向きな姿勢を見せ続け 1 年を終えることはできた。

・コロナ禍も落ち着いてきた今後は、本校がずっと指導してきた社会人として必要な力（体調管理・メンタル強化等）を身に着けさせる指導をより強化することが必要。

学校関係者評価委員会コメント

胡桃沢委員：学校を含めどの分野もコロナ禍は大変だった。わが社はコロナ禍の時にできた時間を社員研修にあて、サービス・調理・メンタルケアなどの様々なカテゴリーで1か月に1回程度実施している。また、外食離れにより閉店する飲食店が多数ある中、現場勤務から採用係へのなど、人材育成のフォローアップメンバーを増員し、自粛期間をスタッフの教育・メンタル支援に役立てられた。

佐々木委員長：高校分野でも対面授業が難しくなり変化は大きかった。行事自粛は大きな影響を与え、生徒の笑顔や活気が減ったが、ICT 教育については加速できたことは唯一の好事例とも言える。

3、評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

・業界全体を捉えられる教育（マーケティング・SDGs・society5.0 の取り組み等）

・今後の飲食業界に対して、より求められる多角的なスキル（IT や SNS 活用・デリバリー等）に対応していけるための教育

・学園の理念や育成像が飲食分野で具体的なイメージとしてつながるような生徒への浸透

② 今後の改善方策

・生徒が業界に対する理解への機会（知る・考える・活用する）を各授業において作っていく

・理念や人材育成像の落とし込みをHRや授業において、都度教員から伝え続けていく

・柔軟に主体的に考え動ける内容へ学内店舗実習授業を中心に授業展開する

③ 特記事項

食を通して、「笑顔・信頼・感動」を生み出す人材となるために具体的に示した7ヶ条に関して、生徒自身の自己点検を実施。また教職員に関しても全体会議・職員朝礼で共有の周知徹底を行い、日々の各授業の中でも生徒への働きかけをしており、全校挙げての意識統一強化を図っている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

長山委員：就活者・採用側共に SNS の活用は常識の一つになっている。SNS に対して抵抗のある世代が経営者層のため、若手との価値観の隔たりを超えていく必要がある。

嘉山委員：新商品発売の PR として SNS 発信はあたりまえに行っている。実際にお客様から“インスタを見てきました”、ということも多く、宣伝のツールとしては不可欠なものだと思う。

古賀委員：現在の勤め先では、対お客様というより、社員同士のコミュニティツールとして活用するよう会社から指示されている。レシピの考案・共有などを、SNS を用いてフォローし合い、社員間のつながりを活性化させている。在学中の 7 ヵ条については、自分の短期目標を立てる際の目安にもなり、とても有り難く感じていた。社会に出てからの方が、より重要性を実感している。

胡桃沢委員：企業の指針としても 7 ヵ条のようなキーワードは必要。7 ヵ条の内容自体、どれも飲食業では必要な項目だと感じる。特に“挨拶返事”に関しては、もっとも大切にして欲しいと感じる。

佐々木委員長：7 ヵ条の前向きな語句と卒業生の明るいイメージが一致しており、学校の雰囲気が明るい理由の一つだと感じる。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

・自身の担当業務にとらわれず、全体的な視野で学校運営を行うことができる教職員の人材育成
・効率良い働き方ができるための仕組み作りと、個々の育成
・教員としての人間力強化（心の教育・社会人育成を行う立場として）
・個々の業務負担に差が出やすい

② 今後の改善方策

・研修や自己研鑽の時間も上手く設け、個々のスキルアップや意識向上を図る
・業務改善や業務削減を積極的に行い業務の効率化を図ると共に、時間的余裕を生み出す

③ 特記事項

・年3回全教職員を集める会議を実施し、運営方針等の浸透を図ると共に情報共有を行っている。
その際、リスクマネジメントに関する研修なども全教員で実施。
・地域の姉妹校全体でプロジェクトを組み業務改善、働き方改革、人材育成を検討実施

④ 学校関係者評価委員会コメント

佐々木委員長：就職支援・進路相談・メンタルフォローなどの勉強会や研修は行っているが、授業力向上研修は特に重要な研修として開催している。

胡桃沢委員：教職員の教育指導は重要な項目。わが社では様々なワイナリーを巡るなどの実地研修・勉強会などを多数開催。また、会社の歴史を知るための勉強会や新卒の料理コンテストの実施など、社員の成長意欲・社内活性化などを目的としている。一方、積立金無しで、社員のグランピングといった福利厚生も行っている。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成･実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育･実践的な職業教育の視点に立ったカリュキュラムや教育方法の工夫･開発などが実施されているか	3
関連分野の企業･関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成･見直し等が行われているか	3
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技･実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施･評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価･単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	3
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務･兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識･技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

①　課題

･大きな変化に対する理解と周知が十分でないときがある

･継続的に教員力の向上（技術力･授業力･指導力）を図る必要がある

･変化していく時代に合った教育内容と現場で求められる力を身につけさせられるよう対応していくこと

②　今後の改善方策

･研修機会の提供、会議での周知徹底を図る

･教育制度や業界の理解を常に意識し、学習内容の見直しを随時行っていく

③　特記事項

･企業様との連携、全体会議での勉強会実施

･姉妹校含め研修や授業の質向上のためのプロジェクトを実施

（技術力授業力向上研修、各校チーフ WEB 会議にて授業内容の共有と改善･資格取得率向上、授業見学等）

④　学校関係者評価委員会コメント

古賀委員：SNS マーケティングはあってよかったと思う授業。知っていると思っていても、新たな使い方や仕様などを知ることが出来、受けられてよかったと感じている。

胡桃沢委員：専門性を重視する場合 SNS などの ITC 分野の知識などは採用にはあまり関係ない。むしろ ICT が普及したからこそ、人間性などを重要視する必要があると感じている。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

・家庭環境・教育環境の変化、メディアの発達等により学校教育のスタイルの変化への柔軟な対応
・継続的な退学率低減、そのための効果的な取り組みの確立
・卒業後の正確な状況把握と離職率低減に向けた支援
・社会情勢の影響があっても、変わらず安定した就職の維持ができるよう企業との連携強化

② 今後の改善方策

・単位制においての退学防止につながる先を見据えた計画的指導方針の確立
・迅速かつ手厚い学生フォローや教員間の連携強化(スピーディーな情報共有)
・モチベーション維持、良好な人間関係構築のためのサポート(授業スタイル、クラス環境、HR の有効活用)
・卒業生就職先への訪問強化

③ 特記事項

・2022 年度退学率 6.1%
・2022 年度就職率 100%

④ 学校関係者評価委員会コメント

古賀委員:1 年次に欠席がちの男子生徒がいて、クラスへ協力を呼び掛けて意識して声かけていた。声掛けをする側としても、皆が動いてくれていることが、ひとつの喜びにも繋がった。

嘉山委員:2 年次はコロナだからこそ、この波をみんなで乗り切ろうと団結意識は高かったと思う。

胡桃沢委員:面談や意識調査は重要。退職防止のために、月ごとに従業員満足度を図る設問をしており、その結果を踏まえて面談を実施し、辞職防止に活かしている。

長山委員:コロナ禍を終え、求人の数はかなり増えているが、辞めない人材、その企業にマッチした人材を求めており、誰もが入りやすい売り手市場ではなく、採用試験は頻度を高めつつ、人選はしっかり行って採用する傾向になっている。求人斡旋企業としては、告知や照会の方法も変えてきており、マッチングが成功すれば辞職防止に大きくつながる。

古賀委員:アルバイトなどを踏まえても、入社後の企業と自分との相性は最も知りたいが、なかなか見極めが難しい。そのため、仲介の方が双方の情報をもとに判断していただけるのはとても信頼できる良い方法だと思う。

嘉山委員:新卒など新しいスタッフを見ていても、入った会社の知識の量や入社への情熱などは様々なため、入社してからはもちろん、入社前のフォローアップもとても大切と感じる。

(5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路･就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	3
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校･高等専修学校等との連携によるキャリア教育･職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

･卒業生に対する支援体制の更なる強化（卒業後教育の機会等）
･サポート体制強化のためにも保護者や高校との更なる連携
･学生に対する精神面、環境面のサポート強化
･生徒に対する指導方法の共有不足

② 今後の改善方策

･卒業生：教員との継続的な情報共有システムの構築。同窓会組織において、就労状況のヒアリングとフォローや、資格取得希望者に向けたアプローチの強化、独立開業支援制度や学内情報の共有
･保護者：相互連絡体制の強化。学習内容を共有する機会（オンライン等も活用）の提供
･在校生：複数のチーム担任制度を実施し、面談やカウンセリング等フォロー体制の強化
授業中や学校生活で教職員が生徒に感じた内容を教職員間で迅速に共有する

③ 特記事項

･経済的支援として、特待生制度、学費分割制度、奨学金制度、高等教育修学支援制度
･今年度も学内にて感染対策を検討のうえ、同窓会を実施予定
･保護者への情報提供として行事等の積極参加を呼びかけ
･学園としての独立開業支援制度整備

④ 学校関係者評価委員会コメント

古賀委員：チーム担任制は、その時々の話したい内容に応じて適した担任を選べて、みんなで守る、という力強さが安心感をもたらしていたと感じており、とても良かったと思う。2 年次は通常担任制だったため、信頼関係は構築できるが、担任との相性はあると思う。

佐々木委員長：担任制についてはその時の状況によって変化が必要。本校ではチーム担任制は毎年検討するが、丁寧な指導が信頼に直結することをふまえ、シングル担任制にしている。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

① 課題

・教育上必要な施設・設備は整っており、防災の体制も出来ているが意識の浸透がやや薄い

・2022 年度もコロナ禍により海外研修の活動が影響を受け十分にできなかった

② 今後の改善方策

・インターンシップについては、2年ぶりに学外実施を実現したが、安定した受け入れ先確保に向けて企業連携をさらに強化する

・避難訓練（地震・津波・火災等様々なシーンを想定し）を定期的に実施し、防災意識を高める

③ 特記事項

・災害等に備えた防災対応ポケットガイドの配布

・Wi-Fi 等メディア授業に対応できる環境整備を実施中

・1人1台タブレットを使用した授業展開の継続促進

・2023 年度海外研修については4年ぶりに実施予定

④ 学校関係者評価委員会コメント

胡桃沢委員：内定者には 3 日間のインターンは行っているが、学生インターンを引き受けたことはない。入社意志は問わずに、希望があればぜひ受けいれたい。飲食業界に興味を持ち、その一面を知ることを目的とするだけでも、企業と学生双方にとって、得るものはあると感じる。

嘉山委員：インターンは地元のイタリアンに受けいれいただいた、有名店の姉妹店のため、とにかくシェフ・スーシェフの動きはとことん見て学べた。インターンは見る力を大きく成長させると感じる。

長山委員：時代と共に学校教育、企業とも変化しており、就活の早期化も進んでいるため、アルバイトやインターン生の支援からスタートし、就職支援を行っている。

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

・精神や身体に何らか事情を抱えた入学希望者の受け入れと事前の情報共有、入学後の学習や人間関係等の兼ね合いや配慮

・18歳人口の減少が進む中、製菓・調理業界の就業を希望する志ある入学者の確保

② 今後の改善方策

・個別対応により、個々に応じた相談や情報共有の強化を行う

・入学後のギャップ解消やパンフレットに記載されている内容順守を徹底する

・高校との連携を強めていく

③ 特記事項

・一般社団法人　神奈川県専修学校各種学校協会が定めた募集時期や内容に関して遵守している

・入試説明会や保護者説明会等も実施し、相違が無いよう適性に伝えている

・高校教員見学会を実施し、授業の様子や卒業生の様子を見て頂く機会を設けている

④ 学校関係者評価委員会コメント

佐々木委員長：様々な業界・分野を知るための業界説明会は頻繁に行っているが、情報発信はこれからも必要。

古賀委員：入学前後で大きなギャップは無かった。オープンキャンパスで在校生スタッフがありのままで接してくれたため、日頃の学校生活をイメージできた。

嘉山委員：入学の決めては在校生スタッフだった。詳しく聞いていた分、ギャップは感じなかったが、クラスメイトの中には、学校への知識が薄く、曖昧な気持ちで入学していることに対して温度差を感じたことはある。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算･収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算･収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第2次中期計画(2018 年度～2022 年度)の達成状況等の公開と同時に、第3次中期計画(2023 年度～2027 年度)を公開する予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④学校関係者評価委員会コメント

特に意見なし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3
自己評価結果を公開しているか	4

①　課題

・個人情報に関する意識の強化と管理徹底

・自己評価で出た問題点について実行できている部分とできていない部分がある

②　今後の改善方策

・全ての教職員に対して法令遵守をさらに徹底させるべく会議等で働きかけを行う

・自己評価の継続的実施と問題点の明確な洗い出し、各改善策をチームにて検討

③　特記事項

・平成26年度自己評価結果より公開

④　学校関係者評価委員会コメント

・特に意見なし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

・年間カリキュラムの中で貢献活動実施に向けて調整はしているが、以前に比べて実施の機会は向上。このような状況下でも実施できる機会を設けていく

② 今後の改善方策

・本校単独や地区姉妹校と連携し貢献活動の内容を検討・実施

・既存のものと新たな取り組みの調整

③ 特記事項

・学内店舗実習の更なる展開（現状や今後の業界を理解したうえでの運営）

・地元自治会との行事連携

・地域の小学校との連携を実施し、職業教育につなげた

④ 学校関係者評価委員会コメント

古賀委員：地域との連携は業界や学校の認知度を上げるためにも大切な取り組みと感じる。学校生活としても学習としても良い思い出のひとつになっている。

（11）国際交流（必要に応じて）

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	3
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
学内で適切な体制が整備されているか	3

① 課題

・2022 年度もコロナ禍の影響で留学生との交流を持つことが難しかった

・国内での就職指導が難関。受け入れのできる企業とのパイプの強化は必須

② 今後の改善方策

・WEB を活用した広報の促進

・留学生を受け入れてくれる就職先の確保に今後も務める

・今後より多くの留学生が入学した場合を想定して、適切な指導・支援体制作り

③ 特記事項

・2022年度在籍なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

胡桃沢委員：社員の中でも外国籍の社員は多くいる。これからの人材不足を見据える意味でも特定技能者は積極的に採用しているので、留学生は重要。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

佐々木委員長　横浜スイーツ＆カフェ校の指導方法でいつも感じるのは生徒がイキイキと過ごしている部分。今後もその指導方法を続けていってほしい。本校の生徒は精神面に不安があったり、発達に課題を抱えていたりする生徒が増えてきている。現在は少しの症状で様々な診断をされてしまう状況があり、それが課題になってきているので、専門学校でも今後、精神面で不安を抱える生徒への理解を深める必要もある。

長山委員　横浜スイーツ＆カフェ専門学校の生徒募集、生徒指導は時代の変化に対応していると毎年参加して感じる。これからも学校生活において、生徒・教員・保護者が協力をしながら今後も良い生徒指導を行って欲しい。

胡桃沢委員　今回初めて参加させてもらったが、横浜スイーツ＆カフェ専門学校の取り組みはいろんな部分でいい取り組みを実施していると感じた。今後少子化で業界の就職人員が不足することが懸念される中、今後も飲食業界で活躍できる人材の輩出をしてもらいたい。また、企業としてもインターンシップや就職をはじめ学校と連携を深めていきたい。

嘉山委員　卒業生として、本校で過ごせたことは今の土台になっている。生徒の時は、飲食の就職を考えてもどんな仕事があるのかがわからない。専門学校では学生の視野を広げられるように指導教育していってほしい。

古賀委員　2022年度卒業生として、今は仕事を覚えることでいっぱいだが、改めて学校の取り組みや先生方の想いを知ることができる貴重な機会だった。今後仕事をしていく上で必要な考え方を改めて知ることができたので自身も頑張っていきたい。